

* 予測検温のしかた

1. 収納ケースから取り出します。

電源が入り、表示が下記のように切り替わります。



2. ワキ下の中央に体温計の先端（測温部）をあてます。

（ワキ下中央が最も温度の高い所です）

- * ワキ下以外（口中など）で使用しないでください。[誤飲やけがの可能性があります。正確な検温ができません。]
- * ワキ下に汗をかいている場合は、タオルなどで汗を拭き取ってください。[汗をかいたまま測ると、ワキ下が冷えているために正確に検温できません。]

3. 体温計をななめ下から30°くらいの角度で、押し上げるようにはさみ、ワキをしっかりしめます。

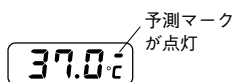
体温計をはさんだ方の手のひらを上に向け、もう一方の手でひじを脇腹に押さえつけるようにすると、ワキ下をしっかり閉じることができます。

- * 体温計を真横からはさまないでください。[先端がワキ下中央にあたらないために、正確に検温できません。]
- * 検温中は、体温計の測定部が正しい位置からずれないように、体を動かしたり、体温計を動かしたりしないでください。[正確な検温ができないことがあります。]
- * ワキ下に強く密着させて測定してください。[お年寄り、やせている方などで、ワキ下の密着が弱い場合は、正確な検温ができない可能性があります。]

4. ブザーが鳴ったら（平均90秒後）

取り出します。

予測検温終了です。



※正しい検温方法で検温しなかった場合、正しい予測結果が得られないことがあります。

- * 取り出してから表示値が変化したときは、変化後の（固定した）値を読みとってください。[予測演算が終了するまで若干の時間がかかるためです。]
- * 数値を読みとる際、体温計の先端に触れないでください。[表示が変化することがあります。]
- * 表示が点滅するときは、最初から検温をやりなおしてください。

5. 収納ケースに収めます。

収納ケースに収めると内蔵の磁石により電源が切れます。

収納ケースの窓から電源が切れていることを確認できます。

くり返し検温するときは：

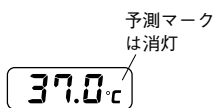
- ・少し時間をおくなど体温計の先端を冷ましてから検温を始めてください。
- ・0℃が表示されている場合は、いったん収納ケースに戻し、電源を切ってから検温を始めてください。

実測検温のしかた

医師の指示などにより特に厳密な体温管理が必要な場合は、実測検温を行ってください。

上記の「予測検温のしかた」の4で、ブザーが鳴っても取り出さずにそのまま検温を続けます。

検温開始から約10分後にふたたびブザーが鳴ったら、実測検温終了です。



<使用方法に関連する使用上の注意>

故障が疑われる場合には、まず以下の項目について確認をお願いします。それでも問題があるときは、別紙の「保証規定」をお読みのうえアフターサービスをお申し付けください。

現象	原因	処置
検温するたびに、温度の数値が違う。	体温は、時間帯、気温、睡眠、感情などの要因で常に変動しています。また個人差、年齢などでも違いが見られます。[自分の正しい平熱をあらかじめ検温しておいてください。] * 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ってください。	
(右記の場合はまれに低めに表示される可能性がある)	体温計の測温部が正しい位置に当てられていない。 体が冷え切っていたためにワキ下の温度が低い。	[検温のしかた]の項に従い、再度検温してください。
(右記の場合はまれに高めに表示される可能性がある)	体温計が冷えている。	手などで体温計全体を温めてから再度検温してください。
他の体温計と比較して平熱が高めに表示される。	すでにワキ下の温度があたたまりすぎている。	ワキ下をゆるめ少し時間を置いてから [検温のしかた] の項に従い、再度検温してください。
他の体温計と比較して平熱が高めに表示される。	他の体温計が水銀体温計等の実測式であり、1~2分の短い時間で検温していた。	そのままご使用ください。(この体温計は「平衡温」を予測しているためであり、故障ではありません。)
いったん高めの表示が出て、下がってからブザーが鳴る。	予測演算の途中のため。(正常な動作です)	表示が固定されてから、数値を読み取ってください。
ワキ下から取り出したとき表示が変わる。	取り出しても予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。(正常な動作です)	表示が固定されてから、数値を読み取ってください。
数値が点滅する。	測温部に指などが触れて、検温が再スタートした。	測温部に指などが触れないようにしてください。
「E」が表示される。	1回目のブザーが鳴る前に、体温計がはずれた。	[検温のしかた]の項に従い、再度検温してください。
「0」が表示される。	測定値が42℃をこえている。	体温測定以外に使用しないでください。
「37.0c」の表示がずっと続いている。(なかなか温度を表示しない/なかなか音が鳴らない)	検温開始から4分30秒以上経過し、実測値を表示している。	予測検温する場合は、再度検温してください。
ブザーが止まらない。	静電気による誤動作。	収納ケースにいったん戻してから、再度検温してください。
初期表示が正常でない。	静電気による誤動作。	
「88.8c」の表示がずっと続いている。(なかなか温度を表示しない/なかなか音が鳴らない)	体温計測温部の温度が低い。外気温が低い。	手などで体温計全体を温めて表示が現れるのを確認してから、再度検温してください。
	体温計測温部の温度が高い。外気温が高い。	体温計の測温部をいったんぬれタオルなどで冷やしてから、再度検温してください。
再検温の際、ブザーが鳴らず、前回の表示が残っている。	体温計の測温部の温度が高いため測定が開始されない。	少し時間を置いて冷ますか、体温計の測温部をいったんぬれタオルなどで冷やしてから再度検温してください。
10分経過時のブザーが鳴らない。	1回目のブザーが鳴った後、体温計の位置がずれた。	[検温のしかた]の項に従い、再度検温してください。
「c」が見えにくくなった。	電池が消耗している。	新しい体温計をお買い求めください。

*【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- * 人の体温測定以外に使用しないでください。[けがの可能性があります。誤作動や故障の原因となります。]
- * 測定結果の自己診断、治療は行わないでください。[自己診断、治療は危険です。]
- * 添付文書を確認の上、使用してください。
- * 使用の前に、外観に破損などがないことを確認してください。[検温値の異常や、けがの可能性があります。]
- * 強くかまない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っぱらないでください。[故障の原因となります。]
- * 強い静電気や電磁波に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないでください。[誤作動や故障の原因となります。]
- * 分解、修理、改造は行わないでください。[故障の原因となります。]
- * 破損したものは使用しないでください。[検温値の異常や、けがの可能性があります。]

【作動・動作原理】

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約4分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する電子体温計です。検温中は、約50～120秒(平均90秒)の時間に予測が成立したことを知らせるブザーが鳴ります。検温をそのまま続けると、約10分後に実測検温終了のブザーが鳴ります。



テルモ電子体温計C202は、平均90秒で検温できます。

…ということは、水銀計などの実測式体温計が3～5分なのと比べて、わりとはやいですね。

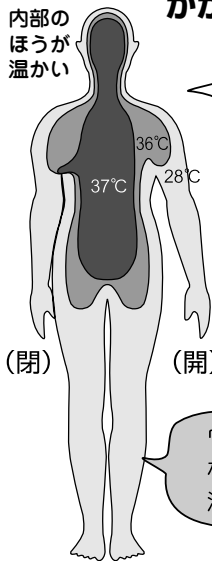


ちょっとまって!

いいえ、本当は実測式で10分以上かかる正しい検温値を、わずか90秒で分析・演算しているのです。



本当は実測式だと10分以上もかかるって、どういうこと?



体の温度は、表面と内部でかなり違うんだ

正確な体温とは、脳や内臓など、変化しにくい体の内部の温度のことをいいます。ワキの下は、ある程度温まっているように思えますが、多少外気に触れているので、すぐに正確な体温が測れるわけではないのです。

ワキを10分以上しっかり閉じていないと、体の内部と同じぐらいの温度にならないんだ

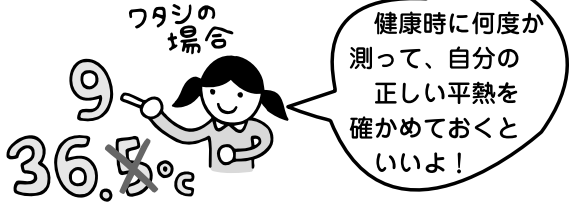
ワキ下と口中の温度は異なります。

(このようにして完全に温まったときの温度を「平衡温」といいます)



今までの数値より、少し高い気がするけれど…?

実測式で3～5分で測った場合と比べていませんか? 10分より短い時間で測っていたなら、ワキの下が十分に温まっていないので、低めの値が出ていたのかもしれませんが。実際、正しく測った場合の日本人の平均体温(健康時)は36.89℃±0.34℃*です。だから37.0℃でも、平均的な平熱の範囲内であり、発熱とは限らないのです。



*田坂定孝: 日新医学 44: 633, 1957



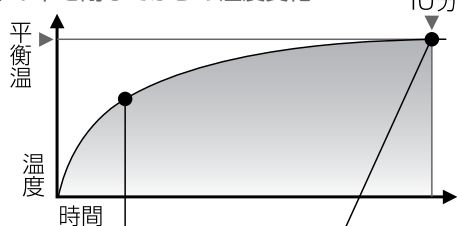
なぜ、テルモの予測式体温計は、平均90秒で測れるの?

テルモの予測式体温計は、多数の体温測定データを内蔵のマイクロコンピュータに記憶しています。このため、測定開始から数十秒間のワキ下の温まり方を細かく分析、演算して、平均90秒で「平衡温」を予測して表示しています。

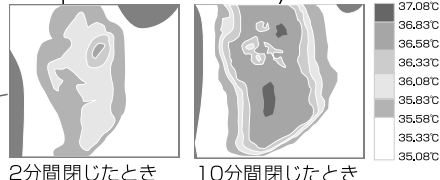
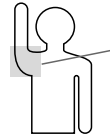


テルモの予測式体温計は病院でも広く使われているんだよ!

ワキの下を閉じてからの温度変化



ワキのサーモグラフィ



*【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

<貯蔵・保管方法>

- * ・暖房器具のそば、車の中、日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気が多いところを避けて保管してください。
保管条件： 周囲温度 -10～50℃

【保管上の注意】

- * ・日光や紫外線などの強い光が当たる場所に保管したり、長時間放置しないでください。[外装の変色や劣化が発生することがあります。]
- * ・収納ケースに磁気テープ、磁気カード、フロッピーディスクなどを近づけないでください。[内蔵されている磁石の影響で磁気記録された内容が損なわれる原因になります。]
- * ・必ず収納ケースに取めて保管してください。[収納ケースに入れて保管しないと電源が切れずに電池の寿命が短くなります。なお、本品は電池が交換できない構造です。]
- * ・収納ケースラベルをはがさないでください。[内蔵されている磁石がはずれ、電源が切れなくなることがあります。]
- * ・複数の収納ケースを重ねて保管しないでください。[電源が切れないことがあります。]

【電池について】

- ・1日3回の検温で5年以上ご使用になれます。
- ・電池が消耗してくると表示窓の℃が見えにくくなり、検温できなくなります。
- ・電池の誤飲事故を防ぐために、電池は交換できない構造になっています。電池が切れた場合は新しい体温計をお買い求めください。古い体温計は各自治体のルールに従って、適正に廃棄してください。

*【保守・点検に係る事項】

【保守・点検上の注意】

- ・本体と収納ケースを洗う際は、水で洗ってください。
- * ・シンナーなどの有機溶剤、ポビドンヨードでは拭かないでください。[有機溶剤を使用した場合、本品の破損、変色や故障の原因となります。ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがあります。]
- * ・水、消毒液等に長時間浸さないでください。水、消毒液等に浸す場合は、必要な時間だけ行ってください。[本品は防浸構造ですが、長時間の浸漬は故障の原因となります。必要な時間については消毒液の添付文書を参照ください。]
- * ・熱湯消毒しないでください。[故障の原因となります。]
- * ・クレゾールは使用しないでください。[故障の原因となります。]
- * ・超音波洗浄はしないでください。[故障の原因となります。]
- * ・ドライヤーなどを使用して乾燥させないでください。[本品が破損する可能性があります。]

【包装】

- ・1個/箱

*【製造業者又は輸入販売業者の氏名又は名称及び住所等】

製造業者：テルモ株式会社

住 所：東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目4番1号

- * 電話番号：0120-00-8178（テルモ・コールセンター）
(9:00～17:00 ただし土・日・祝日を除く)